

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503643		
法人名	特定非営利活動法人 エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷駅家		
所在地	広島県福山市駅家町法成寺2730番地		
自己評価作成日	令和3年1月26日	評価結果市町村受理日	令和3年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和3年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

街の中心から少し離れたところに静かに施設があります。広い敷地の中にボンと立っています。山あり畑あり自然に囲まれています。施設の敷地の中にも、かわいい畑があります。ブロッコリーの収穫で、器がきれいな緑に飾られました。柔らかくおいしい野菜です。次に何を植えようかと、みんなで、考えています。喜んでいただけるように、笑顔で花が咲くよう頑張ろうと思っています。何げない野菜でも、喜びにあふれ、優しい言葉がいただける「おいしいね」を、ありがとうございますと感謝いたします。穏やかで落ち着いた場所の提供に頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、民家や田畑に囲まれた場所にあり、利用者は畑で野菜の収穫を楽しんで穏やかに生活している。職員で考えた「笑顔と優しさの中で穏やかに生活をしていただけるよう慈しみを持って接します」という事業所理念のもとに、普通の生活を大切にすると共に、一人ひとりに対し、人生の先輩として尊敬の念をもち言葉かけをしている。職員は利用者と一緒に調理や準備・片付け、洗濯物たたみなど行い、感謝の意を伝えることを心がけている。食事は行事食や手作りおやつ、旬の食材を中心に提供され、利用者が食事を楽しむことができる支援をしている。職員の人材不足・コロナ禍の中にあるが、①担当者を中心とした事業所内での勉強会開催、②畑の世話や散歩・日光浴などの利用者の気分転換への支援、③防災避難訓練時に、利用者ど「消火避難訓練」のビデオ鑑賞④担当者手書きの手紙を添えて、家族への便りの送付など工夫が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で作った理念を共有し、原点に戻り実践に生かせるよう、思いを込めて声に出している。	職員皆で作った理念をリビングに掲示し、申し送り時に唱和している。ミーティング時にケアを振り返ることで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	道で出会うと、挨拶から始まり、多機能ホームとの共同での回覧板・草刈り・清掃などの共有を行ないっている。	町内会に加入しているが、コロナ禍にて今年度は地域の行事は開催中止となった。散歩で地域住民と出会えば挨拶を交わすなど交流がある	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板にて、社会に対して・施設の出来事を、伝えていけるように、努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換の場であり、サービスに対するの評価や、報告をする事により、施設の思いが伝えられる、取り入れることで、向上に繋がっていく。	コロナ禍にあり、今年度は開催が困難であった。	2ヶ月毎の開催中止に関わる記録の整備を行うとともに、会議のメンバーに対し事業所の情報共有や挨拶をかねて関係性を繋げるなどの取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所に出向き、情報交換や、施設での状況などの意見交換をしている。	介護保険更新時など、ケアマネが書類提出や報告を行い、連携をはかっている。生活保護対象者の相談など相互協力の体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は、安全を考えて、夜間以外にはしていない明るい昼間には、施錠はせず、インターホンを使用し対応をおこなっている。声掛け・見守りに十分配慮を行っている。	担当職員がテーマを決めて勉強会を開催している。利用者の様子を観察し、細やかに言葉をかけたり、見守りをする事で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ケアや言葉について気になる点があれば管理者が声をかけ、再確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会を中心に、勉強会にて、意見を出し合い、声を出し合い注意を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見人(社会福祉士)さんとの、意見交換などを行い、どのような支援をしていくのかを話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に対して文章を理解していただけるよう読み上げ疑問があれば、随時疑問を解決していくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の声・入居者様のご家族の声を、しっかりと受け止めて、行事や、入居者様の対応に活かす努力をしている	利用者は日々のケアの中で、家族は電話・面会時に意見を聴いている。担当者の手書きの手紙を添えて、様子を記載した「いちご便り」を送付している。家族の要望から、利用者との手紙のやりとりにつなげる事もできた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・申し送りにて、意見を聞き、きずきを話し合い、実行し結果を報告することで、することを見出せる。	勉強会の内容や勤務調整、利用者の状況に合わせたケアや献立の変更・物品の購入など、相談事や要望に対して、積極的に聴き取り反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れ、環境づくりに努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を出来る環境を作り、発表をする場を設け、コミュニケーション作りに努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	困っている事や、希望などの情報収集をおこない、勉強会などに参加し、サービスの質の向上に取り入れる努力をおこなう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意見交換や、情報収集を大切に行い、安心をしていただける為に、コミュニケーション作りを十分に作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや気持ちを聞き取り、少しずつ信頼を築き上げる努力を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な内容説明を行い、施設での状況を伝え、本人や家族に理解をしていただく努力を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事への声掛けを行ない、手伝っていただけることへの声掛けなど、お互いの立場を理解し合う事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やお手紙にて状況報告・問題があれば伝え解決が出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を大切に受け止め、コミュニケーション作りに努める。	コロナ禍にあるが、感染状況を見ながら、家族との窓越しや玄関ホールでの面会を行っている。手紙のやりとりや差し入れ・電話で話したいという希望などがあれば、対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況を把握し声をかけ、コミュニケーション作りを支援できるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に、いつでも乗ることが出来ることを伝え、行事などがあれば、案内にて伝える努力をする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り、記録に記入し、申し送りにて職員が把握できるよう努め、コミュニケーション作りを中心に努める。	思いや希望の表出が困難な利用者が多く、家族の情報をもとに表情やしぐさから検討している。日常の中で、やりたいこと・食べたいものなどテレビや広告の情報を見て、思いや意向を丁寧に聴き、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家屋との繋がりを大切に、コミュニケーション作りを行ない、本人の状況を報告・相談・連絡に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションの中で、築きを発見できるよう努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り・介護記録・担当者からの家族へのお手紙などにより現状のきずきに近づく努力が出来ている。また、話し合いなどにより、介護計画作成への道が出来る努力に努めている。	担当職員が介護計画案を作成し、ケアマネ・管理者で検討している。モニタリングは3か月ごとに、計画の見直しは6か月ごとに行うが、状態が変化した場合には柔軟に対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	きずきに対して、ミーティング・日々の記録・家族様へのお手紙を提供し計画の見直し、再度のきずきに対しての見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送り・ミーティング等により、求めている事への把握をおこない、支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとつひとつの会話の中で、学校の話や、家族の話などの言葉が出てくる。昔を懐かしく思いを出される風景を、消すこと無く楽しんで頂くために支援を続けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化・きずきなどを、Drに電話し相談、訪問診療日などに、経過報告をおこない、指示を仰いでいる。	入居時に3か所の協力医について説明し、本人・家族がかかりつけ医として選択している。2週間毎に協力医の往診があり、夜間・緊急時にも適切な医療が受けられるよう支援している。必要時には訪問歯科の受診も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時の情報提供・特変時の相談・日々の状態の申し送りを、記録に残し、担当Drより指示を受け対応・経過記録の維持をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	広報時、医療関係者との情報交換をおこないコミュニケーション作りにつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で出来る事、家族が出来る事を、情報交換・相談をおこない支援をしている。	入居時・契約時に、事業所でできることできないことの説明を行い、同意・了承を得ている。重度化した場合には医師から家族に説明を行い、要望に応じた対応をしている。看取り時には、医師・訪問看護師・職員の支援体制を整え、利用者・家族に寄り添った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会・研修に参加をし、個々での自主勉強をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練・火災訓練をしている。消防職員の参加も取り入れている。	年2回夜間想定で、通報・消火避難訓練を行っている。利用者と一緒に「消火避難訓練」のビデオ鑑賞も行なっている。災害を想定し、水・レトルト食品・ラーメン等の非常食を備蓄している。	災害時に即時対応が可能となるよう、備蓄の充実などさらなる工夫を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを取り入れながら、精神状態などの変化のきずきを受け入れ、申し送りなどにて不安定なことがあれば相談をし、解決に向けての対応をおこなっている。	事業所内で、接遇の勉強会を開催し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応について留意している。気になる声掛けがあれば、管理者が職員に伝えるようにしている。入浴時は、同性介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来たことへの喜びの感謝・笑顔での声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をやりたいのか、どうしたいのかを聞き入れ、案の提供をおこない、声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着ているもの、着ようとしているものへの声掛けの支援・鏡・櫛・髭剃りなどの提供をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「お手伝いができますか」「ありがとう」の声掛けをする事を心がけています。	おやつは手作りでホットケーキやどらやき等、職員と一緒に調理をしたり、ひなまつりやクリスマスなどの行事食では、おすしやケーキが振舞われている。畑で作った野菜と一緒に収穫し、食材に利用したりと食事を楽しむことができる支援をしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録や量の制限がある方への声掛け対応・早食いの方への声掛け対応・お粥・ミキサー食・減塩食などの対応をおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け対応・歯磨き・舌ブラシ・歯磨きテッシュ対応をおこなっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録による状況の把握・声掛け対応をおこなっている。清潔面に対して、陰部洗浄・清拭などをおこなっている。	排泄チェック表を参考に細かな声かけを行い、昼間はトイレで排泄できるよう支援している。夜間は一人ひとりの睡眠状況に応じて声掛けを行なうなど個々にあわせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録による状況の把握・声掛け対応をおこなっている。清潔面に対して、陰部洗浄・清拭などをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の曜日は決めているが本人の声を聴きながら入浴日の変更・足浴・清拭・手浴などもおこなう。	週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調・タイミングに合わせて入浴の支援をしている。ユニット間の協力があり、リフトを利用し利用者が浴槽につかることが出来ている。歌を歌ったり職員と会話を楽しみ、ゆったりと入浴する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度に注意をし足元・枕元などの上げ下ろし・体転対応など状況に応じておこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drの指示のもと、薬剤師との情報提供・内容の把握に努め、変化があれば異常であるかの相談を薬剤師・Drに指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションを元にお手伝いの声掛けをし職員と共に行い塗り絵・カラオケなどの提供、行事に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族様に声掛け、日々の状態を伝え、協力をできるように支援している。	コロナウイルス感染状況をみながら、玄関や短時間の面会を行い、家族に会える機会を作るよう努めている。歩行困難な利用者は、車椅子を使用して日光浴を行い、気分転換できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭のトラブルは受け入れられない為、お小遣いとして金庫に保管・小遣い帳に記載している。 家族・本人への内容説明は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により手紙・電話が出来るよう支援している。状況・状態により対応の見直しをおこなうこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ・机・テレビの配置など、ゆっくりと過ごせるよう工夫している。	共用空間は整理整頓がなされ、気の淀みもなく清潔感がある。キッチンからはおいしそうな食事の香りが漂っている。日光浴ができる場所に大きなソファが置かれ、庭をゆったりと見ることができ、居心地良く過ごせるような工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室への誘導対応、席の配置などの声掛け対応をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の動きやすい配置の工夫を担当や、家族と相談し、危険性を伴うこともある為、変更検討する。	身体状況に合わせて家具やベッドを配置している。利用者の安全に配慮し、畳を利用している居室もある。職員手作りの表札・誕生日カード、馴染みのぬいぐるみや家族の写真など利用者の気に入ったものや飾りを置き、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の着替え・私物の整理など使用する物に対して声掛けを中心に対応・危なくないよう不安にならないよう本人の声を聴くことを心がけている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域との交流が少なく、運営推進会議のみの交流しかできないため、情報の共有をできずにいる	情報の共有とともに地域とのコミュニケーションの充実をはかる	月に一度、施設での出来事や現在困っていることなどを郵便にて伝える	12ヶ月
2	35	災害(洪水、地震)どこにどう逃げるか	かならず行くことができる場所の確保をする	病院や施設などに連携できるよう情報提供を続ける	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input checked="" type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input checked="" type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤その他(職員で外部評価の結果について話し合った)
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input checked="" type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()